

午後1時30分開会

○小枝委員長 ただいまから文化継承・コミュニティ活性化特別委員会を開会をいたします。

欠席届はないですね。はい。では、座らせてやらせていただきます。

本日から、当委員会にも、試行ではありますがインターネット中継が入っております。皆さん、分かりやすくご発言、ご答弁などいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

それでは、まず日程の第1に入ります。これまでの勉強会についてというところですか。これまでの勉強会ということで、令和5年の12月5日、昨年ですね、神田古書店連盟の八木壮一さん、高山肇さんから「神保町、本のまちの継承」ということでお話を頂き、皆さんからご意見もその後頂いております。また、令和6年の7月3日には、区の元職員で神田学会の理事も務められていた小藤田正夫さんのほうから「震災101年と桜の継承」ということでお話を頂いております。こちらについては皆さんからのご感想などまだ頂いておりませんので、今日頂きながら進めていきたいと思っております。

サイドブックスのほうで資料01-1というのが「神保町、本のまちの継承」のほうの、やや、何というんですかね。正副のほうで取りまとめをさせていただいた文章で、01-2というのが講師である高山様と八木様のほうに内容をご点検いただいた講演概要というか、ほぼ議事録そのままが載っております。ご承認いただいているので、今日そのまま記録とさせていただいております。そして、02-1ということで「震災101年と桜の継承」の内容について、ややこちらのほうで短めに取りまとめたものと集約案というのをつけてあります。そして02-2の資料のほうに、やはり小藤田正夫さんの、お話しいただいたご本人のほうに内容をしっかりとご点検を頂いて、公表していい内容ということでご確認を頂きましたので、本日公式の資料とさせていただいております。

そこで、進め方といたしましては、まず桜のほうの意見を頂いていないということから、02-1、分かりますか、サイドブックスの02-1の委員会集約案というほうをちょっと開いていただけたら、理事者のほうは同じのを持っていらっしゃるのでしょうか。あ、持っていますか。こちらは、すみません、分析は小枝、私のほうで内容をやや縮めてしまっているものなんですけれども、ちょっと思い返すということも含めて、私のほうから、あ、こんな内容だったなということと、こんなことができたらいんじゃないかというたたき台のようなものを提案をさせていただいて、順次、入山副委員長から一人一人という形で思い出しながらご意見を頂けたらと思っております。

そうした進め方で、すみません、ちょっと変則で申し訳ないですけれども、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。それでは、お待ちください。資料2-1のほうに沿って少しお話、私のほうからこんな内容だったのではないかということと、2のほうで方針に関する集約案というのを提案させていただきたいと思っておりますので、皆さんのほうでもちょっと思い返しながら聞いていただければと思います。

1の講演概要についてです。お話の始まりは101年前の靖国神社の風景ということで、こちらに大きな写真を映しながらお話しいただきました。関東大震災があって、特に下町

の低地のほうは大変な打撃を受けたところでしたけれども、今ある靖国神社のところには、公衆浴場であるとか保育園であるとか仮設住宅であるとか、たくさんの人たちがそこに避難をしていたという話がありました。そして、明けて3月には満開の桜が咲いて、その3月の末をもって、そのところは閉鎖になったと。千代田区は非常に桜が美しいところで有名ですけれども、その桜の中には、江戸の桜もあれば明治の桜、維新の桜というふうに時が流れて、この維新の桜を植えたのは木戸孝允さんというんですかね、桂小五郎さん、長州の武士だったというところで、九段高校のところにそのお屋敷があり、この木戸さんは駒込のほうの染井村というところにお宅があったこともあって、染井の桜をばっといってときに咲く桜を植えたいということで、当時、靖国神社は招魂社という名前だったということなんですけれども、そこに桜や梅を植えましたと。これは小藤田さんの大変得意とするところなんですけれども、斎藤月岑さんという「江戸名所図会」という絵がありますが、ここにはそうした地図が非常に鮮明に描かれているということでした。今、昭和館というのがありますが、そのところには「蕃書調書」という政府、当時幕府直轄の研究所があって、そこに将軍謁見のためにハリスがおいでになって、それで乗馬をしたいということで靖国神社の高台のところで乗馬をしたと。また、なぜ長州の方がここにこんなに多かったのかというと、江戸三大道場の一つでもある斎藤弥久郎の道場があった。これ調べてみるとどこかに碑があって、私も見に行きたいと思ったんですけれども、行き当たらなかったんですけれども、どなたか分かったら教えてください。

当時の風景としては、防衛ということがあるので、石垣や通りには木を植えたりして隠れるようなところは造らないのだということで、木を植える習慣というのは明治以降ということだと。招魂社という靖国神社の始まりである社を造るときに、どうやって、神田明神でも日枝神社でもそうなんだと思うんですけれども、その経済を成り立たせるかという話も頂きました。盛り場とか茶屋を造るということで、そうやって棚賃を取って神社の維持費を出していたんだよと。で、木戸さんは九段桜、今、イチョウになっていますけれども、あそこにも桜を植えたんだという話もありました。山縣有朋や大隈重信とか、大隈重信は今私たちがいるこの区役所にお宅があったわけで、山縣有朋邸というのは千鳥ヶ淵の農水の建物のところに、今でも見学できるように、もう焼けた後のものですが、ありますね。そういうふうな土地の形状なんだとか、地図なんだということを教えていただきました。

甲武鉄道、今、いわゆる総武線のところにも、そこにも風致のために桜を植えた。明治12年から招魂社は靖国神社になった。明治28年の駐日英国大使に任命されたアーネスト・サトウですね。この方はもう千代田の歴史では何度も出てくる名前ですけれども、その方が公使館前に桜を植えた。だから、当時は、明治30年代、路面電車が走るようになるんだけど、空を覆うような桜の林だったと。路面電車で覆い尽くすような桜が見えたというようなことを言っていました。その後、イチョウが重用されるんだけど、これは、どう言ったらいいか、「崇高の念を抱かせる」という記録が残っているんですが、ある意味権威の象徴みたいなところもあったのかなと。あと、空間を整えるのに非常に使いやすかったということもあって、あとは関東大震災では水分が多いから火に強いということもあったと。

そのような話がありまして、裏面に行って、震災復興ということで植えられたものは、

ここに書かれているように45%がプラタナスでイチョウが28%、そういう時代の風景になっていくということでした。その後、昭和22年に、今度は昭和なんですけども、初代公選区長である村瀬清さんという方が選ばれ、その方が戦後のまちを元気に、みんなを元気づけるために千鳥ヶ淵の土手に桜を200本植えた。このときには国道も都道も区別なく整備をしたんだと。ベンチも置いたと。都民の憩いの場にするんだということで、内濠周辺を大胆に桜でデザインをしていったんだという話でした。昭和40年代はもう国道も都道も、あ、そうか、昭和40年代から国道は国が管轄するというふうになって、桜もベンチも撤去されたというふうにおっしゃっていました。そうだったんだなということです。

その後、首都高というのが千鳥ヶ淵を貫くことになって、これでまた桜が撤去と。で、これでは江戸城の景観が台なしだということで、昭和38年には特別史跡ということで江戸城が指定されたことから、特別史跡というと姫路城なんかと一緒に非常に重たいもので、そうすると千鳥ヶ淵に植えた桜が枯れたときに、それをまた植えるというようなことは非常に難しくなってしまうんだということを言っていました。で、ソメイヨシノはつぎ木で造ったクローンですので、命が人間の命ぐらいで短いということなんです。継承していくには戦略が必要だと。日本橋の地下化のように首都高を遊歩道にするなど、いろいろそこも考えたらどうかと。

それから、多分一番知ってほしいのは、村瀬さんという初代区長が描いた九段坂を桜の名所という種まきが牛ヶ淵から千鳥ヶ淵まで、今、私たちが楽しんでいる平成生まれの桜の名所になっているということで、明治、昭和が今ここに繋がっていることを考えると「令和の桜」のシナリオも必要だねという話でした。

それで、私のほうは、一応2番のほうで集約（たたき台）というふうに書かせていただきましたけれども、昭和59年に区の花、桜というのを決めたのは一般公募だったと記録されています。ここに日本人の心に咲き続けてきた桜は、ヤマザクラ、サトザクラ、オオシマザクラ、ヒカンザクラなど大別されますが、栽培種を合わせると数百種にも上ると言われています。区内にはいろいろな品種の桜が植えられていますが、大半が生粋の江戸っ子桜、ソメイヨシノです。千鳥ヶ淵周辺をはじめとして多くの桜が春には美しい姿で人々の目を楽しませてくれています。そういうふうに書かれています。今まさにそのとおりだと思います。

私のほうの文案というか、全く本当にこれは全然つたなくてたたき台なんですけれども、こんなことから始めたらどうかということを書かせていただきました。千代田区議会文化継承・コミュニティ活性化特別委員会は、桜の歴史を文化として継承するのみでなく、子どもたち孫たちの世代にも美しい風景を未来につなげるために必要なことを行政と協力して進めていきます。

1、江戸・明治・大正・昭和へ桜の歴史に関する参考文献を日比谷図書文化館等、等というのは千代田区議会の図書室もあるんですけれども、そうした資料を整え、千代田区の地域史、千代田の歴史として子どもたちに伝承していきたい。

あとは2点目が、ソメイヨシノなど、寿命や江戸城史跡指定による現状変更の困難さについて、私どもも認識をし、九段南の再開発や地域に多く存在する教育機関とも連携しながら、現在及び未来の桜マップやその樹種のルーツ、ストーリーなどを子どもたちが分か

るように表示し、歩いて楽しいまちを目指しますという、そんな、すみません、大したことではないんですけども、たたき台を作りました。

以降、すみません、皆様のほうからご意見を頂いて、ちょっとタイムラグがありますので忘れちゃったこともあるかもしれないんですけども、思いつきながらお話を頂けたらと思いますので、じゃあ入山副委員長のほう、よろしくお願いします。

○入山副委員長 じゃあ座っていてもよろしいですか。

○小枝委員長 はい、どうぞ。

○入山副委員長 はい。失礼いたします。

先日「震災101年の桜の継承」ということで小藤田様よりご講演いただきました。非常に千代田区の区の桜として千鳥ヶ淵、さらには千鳥ヶ淵の公園、靖国神社と、今、小枝委員長より概要はほとんど話されたと思うんですけども、本当に非常に大切にされたと、歴史もあるということを改めてお話しいただきました。本当に貴重な時間でした。

千鳥ヶ淵の特にのり面についての桜については、環境省との兼ね合いがとても強くて、これからいろいろ話し合っていくと。さらに環境省と話し合っはなかなかしゃいけなかなと思う中、この方針に関する集約案のたたき台の中で、もう、ほぼほぼ小枝委員長のお話のとおり、次につなげていけるような伝承ということで、子どもたちに楽しいまちづくり、景観まちづくりですね。分かりやすい魅力あるまちづくり、桜の木の継承をしていきたいなというのは同じような思いでございます。

そうですね。以上です。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。また、思い出したら、後でも。

○入山副委員長 はい。

○小枝委員長 では、小林委員、お願いします。

○小林委員 ご講演いただいた中でも江戸・明治・大正・昭和、特に千代田区が麹町区と合併して、昭和22年に合併しましたけど、そのときに区長が千鳥ヶ淵の土手に桜を200本を植えたということ。それで小藤田講師の映像を見せていただくと、いかに桜が千代田区のこの土地にあってきれいな景色を醸し出しているということをつくづく感じまして、千代田区が大切にしてきたこの桜というのが、時代を経るに従って区の桜になったんですけども、区民の歴史にちょっと遠くなってきたというところが言われておりましたんで、この桜を区民と共に掘り起こして、新たに千代田区として、今、委員長のほうで提案されていますけれども、この桜の歴史、未来へ向かった桜のストーリーを作るにしても、やっぱりまちの人が参加・参画してくれないとできないと思います。それを小藤田さんがうまく表現していたかと思えますけれども、今、千代田区として、先ほど委員長の、子どもたちに表示し、歩いて楽しいまちを目指すにしても、子どもたちに分かるようにどういうふうに表現していくのかというのが、ここは委員会にも問われていることだと思うんで、今までコミュニティをつくるという、うちの部課の中でも、桜については大切にしていたんですけど、これを次の世代に引き継ぐためには、実際まちに出て歩いて、その歴史を掘り起こして、子どもたちにつなげるような仕組みをつくらなくちゃいけないんで、それをつくる場合に今何ができるかなというのと、やっぱり所管の部署、今いろいろな努力でなさっているんですけども、大学との連携という中で、一つ、まちへ出ていけるようなことを考えたらどうか。大学と連携をしている中で、千代田学というのも今ちょっと

休憩しているようですけれども、千代田学びたい中で一つの桜とのストーリーを取り上げてもらい、歴史を掘り起こしていくと。その中で所管の部署がまちづくり部や何かとも連携していただいて、まちづくりの中からも応援してもらう形でコミュニティを継承していくのがいいのかなと。そのことによって、実際まちの人も参加するのに一つの受皿というか、活動体がないといけないと思うんで、その辺やっぱり区でやっている大学との連携の中でうまく大学の学生さんもキャンパスが千代田区のまちであり道路であり、そういう大学しか自分のキャンパスが大きいのを持っていないんで、こういうところでは積極的に地域の歴史に関与してきてもらうような取組をしていってもらいたいと。なおかつ、それが今回挙げられた中で、桜というのが、今後、千代田区としても、この文化を文化として継承していくのに非常に区民も望んでいるし、大学に来られた学生さんもここで歴史を学ぶことによって、また卒業しても戻ってこられるようなことが考えられるんで、ぜひそのような大学との連携も視野に入れた中で仕組みをつくっていったら、この桜というのが千代田区に根つき、文化として再度花が咲くのかなと。ただ植え替えて新しくするというよりも、やっぱり人が仕組みをつくってやっていくという、まちも参加してもらっていくための仕組みとして考えていけば、今回頂いたこのきれいな桜の歴史を次につなげることができるとかと思っております。そんな形でできればということです。

○小枝委員長 はい。ありがとうございました。

では、大坂委員、お願いします。

○大坂委員 前回、桜を中心にお話しいただきまして、靖国神社のこれまでの経緯とか歴史というのは近くにいってもなかなか知らないことが多かったなというふうに思って、新たな発見がすごくたくさんある講演だったなと思っています。

ちょっと1か所だけ、今回の資料の講演概要の1のところの中段で、昭和館のところです、ね、これ、「蕃書調所」です。字も違うので、そこのところを修正をお願いいたします。

○小枝委員長 ありがとうございます。

○大坂委員 改めて千代田区として桜というのは非常に大事なものなんだなと。大事にしていていいものなんだなというところを認識できた講演だったのかなと思っています。入山委員からもありましたけれども、千鳥ヶ淵のところの桜の更新ですね。これが時期として、今、喫緊の課題になりつつある中で、やっぱり我々としてもその更新ですか、再整備に向けて様々なことを乗り越えていかなければいけない課題というのがあると思うので、そこは全面的に協力をしながらスムーズな形で未来につなげていくような整備をしていかなければいけないんだなというふうに思ったのがまず1点です。

桜ということを見ると、千代田区内、私が住んでいるところで、日本橋川沿いにすばらしい桜並木があるんですよ。で、これはもともと飯田町駅の構内だったところで、そこが再開発によって道ができて、たしか平成14年ぐらいに、あいあい橋がかかっているところなんですけれども、北が新三崎橋から新川橋のところまで約300メートルぐらいもうびっしりと桜が、これ、本当に、今、見事に育っているという状況で、その桜並木のちょうど北側にソメイヨシノじゃなくて、川を渡って反対側に、これも見事なシダレザクラがあったりとかして、1本だけあるんですけれども、ちょっとそこは半月ぐらい咲く時期がずれていたりもするんですが、こういうすばらしい資源がなかなか区民の皆様をはじめ知られていないというのは非常に残念だなと思う一方で、やっぱりそういうすばらしいもの

があっても、千鳥ヶ淵だったりだとか靖国神社だったりだとか、そういうビッグネームにはどうしてもかなわないというところも恐らくあるんだろうなと思っていて、その日本橋川沿いの桜をいかに盛り上げようとしても、やっぱり最終的には千鳥ヶ淵のほうがいいよね、北の丸のほうがいいよねというような形には恐らくはなってしまうんだろうということを考えると、やっぱり既存のものの更新というのをしっかりとやっていきながら、なおかつそこからさらに広げていく、新しいものを育てていくという、そういった考え方というのがすごく大事なんだろうなと思っているので、そこは両面をしっかりとやっていただきたいなと。恐らく日本橋川沿いの桜だけじゃなくて、区内には様々ほかにも資源として埋もれているものがあると思いますので、今回、商工観光課の方もいらっしゃいますので、そういったところもしっかりと拾い上げながら、千代田区の桜というものを全体で盛り上げていければいいなというふうに感じたところです。

以上です。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

では、小野委員、お願いします。

○小野委員 桜は、私も地域振興的な観点で、いつも桜が咲く時期にまちがにぎわうといいなとか、逆ににぎわったことによるまちの人たち、住んでいる方々への弊害とか、そういう視点がどうしても多かったですけれども、今回、このお話を聞いて、江戸時代から、当時活動していた人たち、まちに住んでいた人たちがどんな思いで桜を植樹し、そして守って今に受け継がれてきたのかというような、いろんな歴史的な背景を知るといのは非常に貴重な時間でした。実際に千代田区の区の花が桜というのを私は歴史的な背景があるのかなと思ったら、意外と一般公募でというのが今回も記載をしてくださっていて、そういったところが、たまたまなのか合致している点なんかも、この桜というものをどういう観点で今後盛り上げていくのかというのは非常に大事な視点かなと思います。

今まで桜というところと言うと、例えばクラウドファンディングにチャレンジをしたりだとか、区内だけではなくて、全国的に千代田区の桜を知ってもらおうというような取組もされていたと思いますけれども、こちらに委員長が集約でまとめてくださっているとおり、地元で受け継いでいく人たちがどういう思いで桜を今後見ていくかというのは結構大事な視点かなというふうに思います。ですので、単なる街路樹としての命だけではなくて、桜というものに対する歴史から受け継いできたものをやっぱり知ってもらおうという、そういうところで何か可視化をしていくとか、非常に大事なんじゃないかなと思います。

今回、小藤田先生のお話の中で勉強になったことたくさんあったんですけども、やっぱり桜は寿命がそんなに長いものではないですので、明治の桜、昭和の桜、共に年老いてきたときに、今、各委員からもありましたとおり、更新というところをしっかりと考えていかなきゃいけないし、そこには予算も必要になってきます。今後、令和の桜という観点で桜林を造るシナリオというところを求めていくべきじゃないかというようなご進言も、ご提案もあったかと思しますので、そういったところもまた引き続き皆様と議論しながら、いい桜の区をつくっていければなというふうに思いました。

以上です。

○小枝委員長 ありがとうございます。

では、田中委員、お願いします。

○田中委員 先日の小藤田さんのお話で、いろいろな今まで知らなかった歴史など学ぶことができ、大変貴重な機会だったと思います。ありがとうございます。

この千鳥ヶ淵の桜というのは、千鳥ヶ淵緑道と、あと千鳥ヶ淵公園と、あと代官町通りと、すごい千代田区にとっても日本にとってもすばらしい資源だと思います。都内でもいろいろ桜の名所はあると思いますが、やはり千鳥ヶ淵にかなうところはないというか、唯一無二の場所だと思っておりますので、やはりこれを継承するという事は千代田区にとっても大変な課題だと思っています。これ、環境省だとか文化庁とか、いろんな兼ね合いがあると思うんですけども、千代田区でも今後クラウドファンディング型のふるさと納税など利用したりなどをしながらバックアップしていけたらいいのかなと思います。

それと同時に、今後、桜だけじゃなくて桜以外の新たな魅力づくりというの必要じゃないかなということも考えていまして、四季の花とか、四季折々の魅力をその季節ごとに鑑賞していただけるような取組というの必要じゃないかと思います。皇居の内堀通り外周ですね。そこにはツバキだったりとか、もちろん皇居東御苑の中にはいろんな四季折々の草花がありますけれども、桜だけということではなく、そのような季節ごとの自然を楽しめるような環境づくりという方向性でもちょっと考えていくことも可能性としてあるのかなと思いました。

○小枝委員長 ありがとうございます。

白川委員、お願いします。

○白川委員 一つは、やっぱり、桜って、非常に文学と結びつきがあって、和歌でよく歌われている。和歌で歌われている桜って意外と激しくて、生き死にみたいな話が出てきたりとか、あるいは戦後坂口安吾が桜の下に死体が埋まっているなんていう小説を書きましたけれども、生死に関わるとか、あるいは戦前だって、「同期の桜」というのは、結局自分が死んでいくということを想定しながら歌った歌だったりとか、実は相当激しい花であると。文学と結びつきが強いと。そうしたら近くに古書店街があるというところで、やっぱり文学と桜というところを結びつけて一つ経済化する。あるいは学校と連携してアカデミックな部分で結びつけるというのが必要かなと思います。それができるのはもう土がある通りでなければならぬわけで、旧麹町のほうはやっぱり桜が恵まれているんですが、桜の花が区の花と言いながら、やっぱり神田は少ないですね。これはもう神田というところがもう今は土の部分というのがほとんどありませんので、やっぱりヨウコウザクラをしっかりとこれからは再開発と絡めて増やしていく、地道に増やしていくというしかないのかなと思うんですが、これはもう本当にきれいというのみです。

先ほど大坂委員がおっしゃいましたけれども、桜がきれいだから人が集まるというものではなくて、どこかで飲食店があるとか、桜を見た後に何かエンターテインメントができるという部分がないとやっぱり人が集まらないというところがあります。ですから、桜のあるところというのは我々も何とか支援などもしながら、おしゃれな飲食店とかというのを増やす努力というのは必要かなと思います。神田も再開発をして桜を増やすと言いながら、マンションが増えているもんですから、お店が減ってきていて、せっかくの桜がにぎわいに結びつかないというところがありますから、やっぱりどっちかという商店街のほうを先に道をきれいにしながら桜を増やしていくという努力を優先的にやるべきなのかなと。それが神田をもっと発展させるためには必要かなというふうに思います。

2点です。これまでの桜、ソメイヨシノなんかの大きい桜があるところというのはできるだけ文学とかいうものを結びつけて人を集める努力をする。二つ目は、神田は桜が少ないから増やしていくと。それでそのときにできるだけ今残っている商店街というものの発展に寄与するようなことをやるという2点をご提案したいと思います。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

続いて、のざわさん、お願いします。

○のざわ委員 ありがとうございます。そうしますと、私は5点お話をさせていただきたいと思います。

まず1点、今回、講演概要、小枝委員長がお話しされたものにつきますが、これを全てまず史実なのか、それとも伝承なのかという観点から整理を頂いて、史実という観点か伝承という観点からでもいいんですけども、これは千代田区の非常に歴史があるからこのようなものがあるのでございまして、千代田区が古くから持っている地域特性といたしましては財産と認識いたしまして、これからのエリアマネジメント的な観点からなのか、地域の活性化という観点なのか、商工観光という観点なのか、文化を大切にするという観点なのか、何かそういう形での活用という形で使えないのかなというふうに私は思っております。

それと、2点目、今、1点目で整理、伝承なのか史実なのかという伝承していただいたものを、前回、予算総括でお話をさせていただきました事務事業概要の46ページでまちの記念保存プレートというお話がありまして、これはまだまだ問題はありますが、やっぱり継続的にプレートを作っていただくのはいかがでしょうかというご質問をさせていただいたんですが、その一つの題材といたしまして、検討課題としまして、今回の桜の多くの事例というのは引き続きご検討いただけたらというふうに思っております。

そして、3点目でございますが、昨日、千代田区民体育大会が開催されまして、執行者の皆さんも、どうも本当にありがとうございました。それで、私、こちらのほうに、ご承知のとおり、皆様、地区町会連合会様に分けて一生懸命日頃の成果を競っていただいたと思うんですが、今回、私、この桜というテーマで千代田区全体を俯瞰したんで、ほっと思っただけなんですけれども、この各地区町会連合会様にはいろいろなそのような史実・伝承を含めたいろいろな財産がありまして、この区民体育大会こそコミュニティ活性化のとても大切なことだと思いますので、この文化継承・コミュニティ活性化特別委員会を行っていくのでしたら、ぜひ地区町会連合会、それぞれ比較はすることのできない大切な宝物があると思いますので、そういう観点からの開催というか、委員会の開催というのをご検討いただくのはいかがでしょうかというのが3点目でございます。

4点目は、もう千代田区、今申し上げましたように多くの史実・伝承等のご遺産がありますので、その中から千代田区にも世界遺産みたいなものがあるんじゃないかなと思っまして、そういう世界遺産を実現していただくようなコーナーが千代田区でも研究を開始していただけないかなというふうに思っまして、それで、最後に5点目でございますが、私、小藤田正夫様のお話をまた維新の会としてあの後聞かせていただいたんですけども、私、本当に感銘をいたしまして、非常に無形資産というか、もう物すごい莫大な該博ないろいろな知識・アイデアがありまして、多分ここにいらっしゃいます執行者の方々も皆さん得意分野でお持ちでいらっしゃると思うんですけども、前回の総務企画の特別委員会の総括

（予算・決算特別委員会企画総務分科会）でもご質問させていただきましたが、ちょっと違いますが、町会長の方の準公務員化というお話で少しご報酬などをご検討いただけたらというお話がありましたが、こういうOBの方々で非常に無形資産をお持ちで非常に意欲のある方に準公務員化みたいな形で少し、あのときの例えば分かりやすいといふかなと思って、消防の方のみみたいな例えを使わせていただきましたが、そのような形で少し報酬をご検討いただくような仕組みをつくっていただくのはいかがかなといふふうに思いました。

それで、一つだけフィードバックとなったらということで、面白いお話を小藤田様がお話しされていまして、ちょっとお伝えさせていただけたらと思って、面白くない、あまり使えないかどうかはちょっと間違っていたら申し訳ないんですが、今、町会の中にはおみこしがなかなか上げられない町会もあるといふふうに伺っておりまして、それでちょっと将来的なんですが、祇園祭ですとか、全国の大きなお祭りの中の運営に関しては、お祭りのNPO法人化ということが行っておりまして、千代田区もそれが30年後、50年後、100年後になるかどうか分からないんですが、そういう形での運用というのが必要になるんじゃないかというお話をされていまして、それも一つの、もう既にご検討されているのかもしれませんが、私個人的には物すごくそういう考え方もあるんだなと思ひまして、これからのエリアマネジメントなのか、地域の活性化なのか、商工観光か、文化の伝承なのか、そんな形で皆さんと共有をさせていただくのは効果的かなと思ひましてお話をさせていただきました。

以上5点が私の感想でございます。ありがとうございます。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

すみません。6点と言われたので最後までお聞きしたんですけど、桜の話からコミュニティ全般にわたる話までお話しいただきました。

そうですね。それぞれ副委員長のほうからもお話がありましたけれども、皆さん結構ポイントがあって、例えば大学との連携の中で桜のストーリーを地域展開をしていったらどうかという提案や、あるいは日本橋川にもう既に美しい桜があるだけけれども、人々の目は千鳥ヶ淵に集中して、ほかに植えた桜のほうには実は目があまり行かないよという話であったりとか、それから、もっと歴史の話を可視化したらいいんじゃないかという話や、あるいは、桜の話からもう少し四季折々の花というような道づくりを考えたらどうか。また、神田のほうは非常に、何といふか、土面が少ないということから、道路においてはヨウコウザクラで、もう少し大きな広場においてはソメイヨシノというような植え方の発想も必要ではないか。あるいは、最後のざわ委員のほうから、桜に関することで保存プレートをつけていくということをもっと考えていったらいいのではないかというようなこととお話、いろいろアイデア出しを頂いたといふふうに思っています。ちょっと理事者の皆さんの中にはお話聞いてくださった方とそうでない方があると思うんですけども、ちょっと今の感想や提案を頂いたことに触れて、一言ずつ、申し訳ありませんが、地域振興部長のほうからお話、ご意見など頂ければありがたいと思います。よろしく願います。

○印出井地域振興部長 前回の小藤田さんのお話、私も小藤田さんとは古いので、何回か聞いたような話もあるんですけども、改めて伺って、忘れたところ知らなかったところ様々あったのかなといふふうに思います。それに対する感想の中で、今、各委員の皆さんから出されたこと、その辺のコメントについても若干できるものはさせていただきたいと

思うんですけれども、小林委員から、大学との連携というなお話がございましたけれども、今、千代田学の中では、大学側からの研究提案という形になっているので、まさに今後、千代田学の見直しの中で、区側のほうからこういったテーマでというような、そういったことについても検討しているところでございますので、その辺りについては参考にさせていただきたいなというふうに思います。

それから、大坂委員のほうからありましたけれども、あそこのアイガーデンのところが一番、今、何というのですか、樹勢がいいんですね。結構やっぱり桜通の人からすると、船から見る桜として結構有名らしくて、その辺りも含めて、やっぱり千代田区の桜の魅力として発信していくと。目黒川っぽい感じになってきますので、そういうことが必要なんじゃないかなというふうに思っています。

それから、すみません。全員のコメントにはないんですけれども、やはり千代田区の花ということなただけでも、私、昔から神田の例えば一番よく聞いたのは、元旭町の町会長さんなんかからは、千代田区の花といっても神田にないじゃないかということをよく伺って、無電柱化に伴って、今後、多町大通りですね。日本橋のほうでも咲いているようなオカメザクラの並木というようなことになっています。それから、私が言うといろいろ差し障りがあるかと思うんですけれども、神田警察通りについても、村瀬区長の話が出ましたけれども、遠山区長のときから、ここにおいでの方々は遠山区長をご存じない方が多いと思うんですけど、遠山区長のときからそういう話があって、さっき紹介した旭町の元町会長の方なんかは非常に望んでいたということもありますので、やっぱり千代田区全体の中で桜の開花時期のバランスとか、人の流れとかといったことについても検討していく必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

それから、桜以外の花もということについては、まだまだなかなかうまく際立っていないんですけれども、千鳥ヶ淵はもう一つ「四季の道」という名前で四季を、これ所管を離れるかもしれないのですけれども、前の所管の話になるかもしれないのですけれども、四季を通じた形で、今、いわゆる指定管理者ではないんですけれども、千鳥ヶ淵緑道全体の花壇ですとか、そういった植栽ですとかについては、事業者の知恵も入れながらということがありますので、その辺りこの当委員会の所管でいうところの四季を通じた観光資源になるような形というのは、ちょっと全庁横断的に検討していきたいなというふうに思っています。

以上でございます。

○小枝委員長 ありがとうございます。かなりまとめてお話を頂いたところもあるので、全員にと言いましたけれども、一旦これでまとめて、ご答弁というか、ご感想を頂いたということで。

あと、進め方としては、もう少し個別にこの桜のことについて質疑したいということがあればご質疑いただき、なければ、もう一点の、そうですね、神保町の本のまちのほうの集約のほうもちょっと触れておきたいと思うんですけれども、まだ、桜のほうについては、この集約を今日これで決めるということではもちろんなくて、今日頂いた意見をまた基にして、次の委員会までに文案を手直しをしてまいりまして、皆様に正副で手直ししたものをお諮りをしながら、これ丁寧に全体総意にまとめ上げていきたいなというふうに思っております。行政のほうにいたずらに負担になるようなことではなく、やっぱりみんながそ

うだなと思える仕事につなげていけたらというふうに思っています。

何か、こちらのもう少し今日の段階で質疑をしておきたいことがあれば、どうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 いいですか、今日のところは。では、すみません。ありがとうございます。

それでは、（２）のほうの「震災１０１年桜の継承」については、この意見を頂いて、もう一度正副のほうで集約案を書き直すということでやらせていただきます。

次に、（１）のほうの「神保町、本のまちの継承」のほうなんですけれども、こちらのほうも一旦皆様のほうに投げる形になるのですが、委員会資料１－１というものをお開きいただけますでしょうか。ちょっと開くのに時間がかかるんですよね。大丈夫ですか。

こちらのほうも、何というか、漢字や字句の修正があるかもしれないので、それはそれで何なりと言っていたら直していきたいと思います。その上で、１のほうが講演概要という形で、２の、めくっていただくと、「課題と方針に関する集約案（たたき台）」というふうになっているところをご覧くださいませんか。大丈夫ですか。こちらのほうはお二人から講演を頂いた内容を基に現状、課題というものを割と素直にまとめました。そしてその内容を基に方針案というものを出しました。これも全くのたたき台ですので、皆さんにたたいていただくための内容です。

一応現状と課題案というところを、すみませんが、申し上げます。「神保町は、明治期より日本を代表する大学や本を愛する人たちの求めに応じて、本の街として発展してきた。大正時代から東京古書会館を拠点に協同組合をつくり、現在でも１３０ある古書店が専門分野をもって横につながり、紹介しあいながら古書店街を継承している。世界や日本中の問い合わせ、本の需要に答えている。千代田区と共催で続ける「古本まつり」も６０回を重ねた。震災も戦災もバブルも乗り越えてきた神保町だが、商業文化を継承するにあたって、課題は以下のとおり」である。これだけではないと思うんですけれども、取りあえずお話しいただいた中は２点ありました。

「１点目、商店街の多くの建物が旧耐震で、建て替え時期を迎え、あと１０年のうちに進めていかねばならないと考えている。周辺ではマンションやオフィスに代わってしまっているが、商売は文化であり、古書店や伝統文化にかかわる商売を継承したいと考えると、採算上の問題がある。共同化する際の問題、駐車場附置によって商店街が軒を連ねることができない、宅配で届ける時代に駐車場がそれほど必要ではない」。

「２点目、１５年位前から「神保町を元気にする会」を手弁当で続けている。この地域雑誌を続けていくためには、たとえばエリアマネジメントなど安定した仕組みの中で、実現できないかと考えている。そうした課題を乗り越えて、商店という文化を引き継ぐため、区と区議会が状況を理解して後押ししてもらいたい」という内容にまとめました。案です。あくまでたたき台、案です。

それに対して、方針案ということで書いてみました。「本の街神保町が将来に向かって、文化継承をしていけるように、千代田区と千代田区議会は、課題を共有し、その解決のため情報を収集し、効果的な方策を見出すべく議論を尽くす。当委員会としては、連なる商店街の妨げとなる、駐車場附置義務の緩和、１階店舗が可能な限り古書店として自前の商いを続け、特色を継承してなお採算が合う現実的な方法を見出すように側面から支援していく。商店街事務局の支援強化、もしくはエリアマネジメントなどのテーブルを強化し、

地域雑誌の継続をするための民間の力を、千代田区が後押しすることを求める」というような文案にしてみました。

こうした公式に委員会が文章をまとめるときには、もっと何というんですかね、多様な人々の意見を聞きながらまとめていかなければいけないという問題もあります。あとはここにいらっしゃる幹部職員や議員の皆さんがそれぞれ地域から意見を聞いているというところでバランスを取っていくということもあるかと思います。あくまでたたき台ですので、こちらのほうはもう感想は皆さんから頂いている内容ですので、もっとこうしたらどうか、あるいはこういうふうにすればもっとうまくいくんじゃないかというようなことの見解があったら頂くか、もしくはやり方としては、今日は文案を提示し、次回の委員会に意見を頂くでもいいですが、ちょっと意見を頂けますか。思いつきでも何でもいいんです。こういうことを感じますとか、そういうふうではないんじゃないかとか、ここは言い過ぎなんじゃないかとか、そういうふうな意見を頂けたらと思います。日程としてはまた次の定例会までの試行錯誤もありますので、一致しないこともあるかもしれませんし、これはあくまで私の意見ということではなくて、ご講演いただいた内容から導き出した一つのオーソドックスなたたき台ということで私なりにまとめたつもりです。ご意見あれば、よろしくをお願いします。

○白川委員 古書店という形態がネットの発達でかなり商売としてきつくなっているというのはもう事実だと思います。ですから、古書店をこの数を維持するとか、そういうのってかなりハードルが高いというか、相当支援とかしていかないと難しいかなと思います。神保町に前ドン・キホーテ、ディスカウントショップが来ましたが、何かあつという間に撤退したんですね。でも、吉本の若手中心のライブハウスなんかがあると、すごく若い人が集まってきてまちがにぎわうと。そうすると、やっぱりディスカウントショップ的なそういう軽めの小売文化のようなものではなくて、昔からのお笑いとか、何かしらの文化の背景を持ったものというのはあのまちでは非常に発展しやすいんだと思うんですね。だから例えば喫茶店が非常に有名なところがあったりとか、本のまちというイメージを残すような何らかの商店街というふうにシフトさせていく努力が必要なのかなというふうに思います。

取りあえず、これだけです。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

のざわ委員、お願いします。

○のざわ委員 2点ございまして、一つ、ぜひこのたたき台に加えていただきたいのが、名前が出ているんで名前を言っちゃいますけど、八木さんのご提案で、神保町は出版社が多いんですと。中小の出版社も多くて、これ、議事録のとおりなんで、五、六年前だと500ぐらいあるんですねと。それでそういう出版社が1人、2人でやっているという人たちが結構いまして、そういう人たちもぜひ神保町で仕事を続けられればなと思っていますので、またいろいろご相談させてもらいたいと思いますということで、小枝委員長がはいということなんですけども、これちょっとどういうことかというのを1回伺いして、内容によってはご検討いただくというのでもいいのかなと。

あともう一つ、これもできるかどうか分からないんですが、私個人的にびっくりした、これは高山さんのお話で、池袋の高野区長の例があると思うんですが、高野区長が池袋の

西武のときにヨドバシカメラさんが1階、2階をというときに、これを待ったをかけた。これは区役所がこういう例を、私、今まであんまり聞いたことないですね。行政が業態と業種に対して口を挟むというのはなかなか今までなかったんですがということで、業態と業種に対して行政がこういうふうにしろってなかったんですけど、こうやっていかないとやっぱりまちということを守っていくためには必要じゃないかというご提案もありまして、これも急にということはないんですが、どこかのタイミングで、商業は文化というものを守るためには必要なのかなと思ひまして、研究を続けていただけたらというふうに思ひます。

以上2点でございます。

○小枝委員長 はい。ご提案いただいた部分は今後の委員会の進め方に関わるころでもあるので、ちょっとそうですね、日程を見ながら皆さんと相談させていただきたいと思ひますが、業態についての確かにやり取りってあったんですけども、これについて何か行政として答弁できることってあるんでしょうか。業態について指導するということですよ。例えば再開発の店舗はこういうこのまちに非常になじんだものにしたらどうか。それ、まちづくりがないと駄目ですかね。

○印出井地域振興部長 ちょっと。

○小枝委員長 駄目ですか。

○印出井地域振興部長 これもちょっと前職の関係になっちゃうので。ただ、今回の本会議でも所管からご答弁したかと思うんですけども、千代田区では人口減少をしたということで、住宅誘導型の地区計画を進めてきたというところがあるのはご存じかと思ひます。住宅を誘導することによって規制緩和をするというようなこと。この前ご答弁があったのは、低層部に商業機能を入れることや生活支援機能を入れることで機能更新を図るというタイプの高度利用型地区計画というのものもあるというようなことだったと。ただ、そこに商業機能なり生活支援機能を入れるというのはあるけれども、住宅と同じように意味で、古書店を入れろという形のところまでは制度的に担保できないということかなと思ひます。やっぱりその辺というのはまさに商店街とかエリアマネジメントの力とか、そういったものを総動員していくということになるんだらうかと。少なくとも個別建て替え等についてはそういうことになるでしょうし、再開発にあつては、その再開発事業者さんがそういった形のリーシングをするような形で行政からもいわゆる指導していくとか、そういうことはあり得るのかなというふうに思ひます。

○小枝委員長 ということです。のざわ委員、よろしいですか。

○のざわ委員 ありがとうございます。

○小枝委員長 それでは、この文案にまだまだ白川委員のように加筆をしてもらいたいということもあるでしょうし、私自身も委員会として意見を出していくのであれば、例えば東京都さんのほうに固定資産税の負担軽減であるとか、そうしたことも本当は意見として出していけたらというふうには思ひているので、皆様のほうからも閉会中の中でもいいので、こういうことをやっていくことがいいんじゃないかと。また、駐車場のことを盛り込みましたけれども、また今の理事者の中にいらっしゃらないんですよ、元職の話ができたとしても。次回の委員会にはちょっとまちづくりの方にも出ていただいてということもちょっと皆様にご相談できたらなというふうには思ひます。それはちょっと今後の進

め方のほうに入っていきますので、ちょっと日程1のほうを一旦終了してもよろしいかどうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。それでは、日程1を終了いたします。

では、次に、日程2の今後の調査について皆さんと意見交換をしたいと思いますが、よろしいでしょうか

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。これに関しましては、今までのざわ委員のほうから日比谷の話と田中委員のほうから文学館の番町の話を受けていました。一旦それをのざわ委員からは預かっているような紙面がありますけれども、田中委員のほうからもご案内いただいた上で皆さんからご意見を頂ければと思います。

ではまず、どうします、配付しちゃう。回しちゃえばいいよね、回しちゃえば。日比谷の件と番町の件を回すだけ回して……

〔「資料があるのですか」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 そうです。参考なので、別に公式じゃないですから。

〔小枝委員長提供資料回覧〕

○小枝委員長 はい。一旦。大丈夫です、大丈夫です、そのまま。休憩しなくて、大丈夫です。

それで、それぞれすみません、一言あれば。もうこれまで何度かお話しいただいていることですので一言だけ、田中委員とのざわ委員のほうからご発言いただければと思います。

では、田中委員、お願いします。

○田中委員 今まで神保町と九段と来て、麴町も地域として掘り下げるという意味で、麴町といえば新井巖さんですね。六番町町会の町会長さんであり、千代田区文化芸術協会の会長でもあられる新井巖氏にお話を伺って、その中で「麴町界隈わがまち人物館」という取組もされていて、先日も千代田区のアートスクエア——アートスクエアでしたっけ——で展示会をやったり、今も麴町の出張所のほうで展示をしていただいております。また、あと文人通りという麴町の通りの命名をされたということもありますので、新井会長はほかにオペラのこととかお詳しくて、ですが、千代田区に関しては、やはり麴町の歴史、文人たちの歴史、芸術の歴史などをお伺いしたらいかかかなと思ってご提案しました。

○小枝委員長 ありがとうございます。

のざわ委員のほう、お願いします。

○のざわ委員 まず、小枝委員長にちょっときれいに紙にまとめていただきまして、まずはどうも本当にありがとうございます。こちらちょっと固有名詞になりますが、日比谷様という方から、ちょっとかなり内容がナイーブなんで、春山議員のほうにお問い合わせがありましたというふうに言わせていただきます。それで文化振興課長様、皆様にご参加いただきまして1回会を開いていただきまして、日比谷様、皆様のお話を聞いていただく会をしていただきました。それで、そのお話の内容を承りまして、ちょっとその後は春山議員のほうが進めていらっしゃるんですけど、ちょっと史実か伝承かというところのその判断のところ非常に繊細でございまして、それからちょっと私の手を離れているんですが、春山議員のほうからは、やはりこういう、これに限らず多くのこういう歴史的な財産があり

まして、これが千代田区がやはり古くからありまして、多くの地域特性があるという背景の下にこういうことがありますので、これも一つの題材といたしまして、この地域特性、財産と認識いたしまして、これからのエリアマネジメントなのか、地域の活性化のためなのか、商業振興なのか、文化の発展のためなのか、連合町会、町会等の発展のためなのか、コミュニティ活性化のためなのか、いずれもしましても包括的な観点から、この委員会なのか企画総務委員会なのかでちょっとご検討を頂くのはというようなお話もありまして、ちょっと今日こちらのほうに出させていただきます。

という次第でございます。以上でございます。

○小枝委員長 のざわ委員、ありがとうございました。

二つご提案を頂きまして、「麹町界隈わがまち人物館」の六番町町会長で文化芸術協会の会長でもいらっしゃいましたかね、新井巖さんから、この番町の文人、島崎藤村、泉鏡花、有島武郎、樋口一葉、内田百閒、もういっぱいありますけれども、そうした方々が文人たちが集ったこの歴史というものを話しいただいて、歩いて楽しいというか、そうした風景が思い浮かぶようなまちづくりや道づくりをしていけたらいいんじゃないかということでの勉強会のご提案。それから、再三のざわさんのほうからお話しいただいていた、日比谷入江のお名前の発祥ともなった日比谷家が今に伝わるということだと思わすけれども、そうしたお話も今日頂いたらいいんじゃないかということ頂きました。この間何度かそのお話を聞いて、本当に私のほうの進め方が大変遅かったもんですから、なかなか種まきに終わっていて消化できていないことを申し訳なく思うんですけれども、こうした形で頑張ればもう一つぐらいは勉強会ができるのかなというふうに思う気持ちと、今、この二つの勉強会をやったことをもう少し深度化というか、勉強をちゃんと深めて提案なりまとめに向かっていったほうがいいのかという二つの方向、そしてまた特別委員会でなくても常任委員会という中での取扱いというものもあると思うんですけれども、すみません、ご意見を頂いた上で今後の進め方について考えていきたいと思わすけれども、ご意見を頂ければと思います。よろしくお願ひします。

○大坂委員 提案いただきまして、本当にありがとうございます。どちらも本当に興味深い話ですし、ぜひ聞いてみたいという気持ちは本当に山々ではあるんですけれども、委員会として最終的にどこに向かっていくのかということを考えなければいけない時期に来ているのはこれはもう間違いないことだと思っています。そうした中で、この特別委員会では、古書店と桜という形にフォーカスを当てて今までやってきたところで、さらにここから深い話を二つ、三つ広げていってしまうと、落ち着くところに落ち着かないというか、実のある集約ができないまま委員会が終わってしまう可能性が、それが一番心配になってしまうので、この話というのはありがたい話ですので、またどこかでそういった場を特別委員会とは別の形なのか、常任委員会というのはなかなか難しいとは思わすんで、議員有志で何か話を聞く機会があったりとか、そういったことがつくれば一番いいのかもしれないんですけれども、この委員会としては、今までやってきた古書店街のコミュニティの継続ということと桜というところの深掘りというところで、例えばその解決策として執行機関は何かを持ち合わせていないのかだとか、そういったところについてもう少し意見交換ができればいいのかなというふうに私個人は考えています。

○小枝委員長 ありがとうございます。

本当に私のほうの進め方が大変遅かったものですから、効率的にもっとたくさんのテーマができればよかったのかなというふうに思うんですけども、特別委員会のほうも続くのかどうなるのか分かりませんが、少しやはり2年の節目をめどに集約をかけていきたいということと、今の番町の文学館の話もつながっていると思うんですけども、行政のほうでこうした文化継承、歩いて楽しいということを考えてときに、文化財の位置づけということをしてしながら庁内的な会議をやっているということを知っておりますけれども、差し支えなければそうした取組について、それはまだ内々。それも所管が違う。分かりました。ちょっとこの設定が非常に今狭く設定しているものから、そうした話とかと本当はつなげて。（発言する者あり）はい。オンラインなので休憩できないということがあります。（「休憩できます」と呼ぶ者あり）できますか。（「休憩はできます」と呼ぶ者あり）あ、そうですか。

では、休憩します。

午後2時40分休憩

午後2時45分再開

○小枝委員長 それでは、再開をいたします。

2人の委員のほうから新しくテーマのご提案、この間も頂いて今日も頂きましたが、ちょっとほかの場において、こうした勉強会、共有していくという機会を持つということで、ちょっとこの委員会の中では、今回は共通課題としては受け止めるけれども、次の調査ということには進まないということでご了承いただけますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 よろしいですか。はい。ありがとうございます。

それで、次回に向けてなんですけれども、今日ここにいらしゃっておられませんが、文化継承、歩いて楽しいまちをということで、集約の中にも、桜においても古書店においても入ってまいりましたけれども、やはりそこはまちづくりとの関係性ということもありますので、ウォークブルの担当の理事者の方にもおいていただけるかどうか、ちょっとご相談をさせていただいて、（「メンバーですから」と呼ぶ者あり）はい。メンバーでありますので、それではお呼びして引き続きお話を伺うということで、次回についてはそうした流れの中で、今日ご提案をしている集約文をもう少し皆様と共有できるものにさらに深めていきたいと思っておりますので、どうかご協力を理事者の皆様にもよろしくお願いいたします。

駐車場のこともどうなんでしょうか。お勉強会という形じゃないですけども、理事者の方からお話いただくというようなことは可能なんでしょうか。はい。そうしたことも文章に盛り込む以上は行政のほうとのすり合わせということも必要になってくるかもしれないので、その点についてもその都度皆様にご相談させていただきながら、正副のほうで案を作っていくと思います。

入山副委員長、よろしいでしょうか。

○入山副委員長 はい。

○小枝委員長 はい。それでは、よろしいということですので。はい。

それでは、日程2、今後の調査について終了させていただきますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。次に、日程3、その他に入ります。委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

次に、日程4、閉会中の特定事件継続調査事項について、閉会中といえども委員会が開催できるように議長に申し入れたいと思いますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 それでは、本日はこの程度をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。

午後2時48分閉会